

26. 突発性難聴に対する高気圧酸素療法 (第6報)

柳田 則之* 三宅 弘*

私共は、昭和47年3月より突発性難聴の治療に高気圧酸素療法(OHP)を導入し、好成績をあげていることは既に報告しているが、今回は治療症例も極めて多くなったので、他の治療法との比較検討を行い、高気圧酸素療法の適用をどのようにするかを検討した。

〔治療方法〕 高気圧治療室内において室内は空気加圧、患者には1分間12~15ℓの加湿純酸素をdemand valveを通してnon rebreathingに与えた。2ATA、加圧時間約15分を含めて60分を1回の治療とし、連日施行、14~20回を1クールとした。

〔治療成績の検討〕

対象は、昭和47年3月より昭和52年1月までの4年11ヶ月間に発症後6週間以内に治療を開始したOHP 204例とOHP以外の治療377例についてである。

OHP以外の治療は、低分子デキストラン、ビタミンB群、ATP、ステロイド等の点滴、星状神経節遮断、等の併用療法を行っている。

さて治療効果を検討する場合、無治療群と比較するのが最良であることは言うまでもないがこれは人道上許されないことである。その意味で異った治療法を行った多くの症例と比較せねばならないが、その際、発症から治療までの期間、聴力低下の程度や型、年齢、めまいの有無、原因(これの解明は不可能であるが)等の因子により大きく左右され、そのためこれらの条件を出来るだけ同一のもので判定する必要がある。

その意味で、私共は表の如く①発症から初診までの期間、②聴力低下の程度、を出来るだけ同一条件においた方法において、OHPとOHP以外の治療法を500、1000、4000の各周波数について聴力回復を検討した。

即ち、聴力損失区分を0~25dB、30~55dB、60~85dB、90dB以上の4段階に、又発症から初診までの期間を7日以内、8~14日、15日~28日、29~42日の4段階にそれぞれ分けた。

例えば、表2 1000HzにおけるOHPについて初診までの期間が7日以内で、聴力損失が、60~85dBの区分のものは40例あり、そのうち固定時の聴力が0~25dBに回復したものが28例、30~55dBに回復したものが8例、60~65dBのものが4例であることを示している。

このようにして、同一条件、即ち発症日の日数と難聴の程度が同一の枠においてOHPとOHP以外のものの聴力回復を比較検討した。

その結果をみると、表の如く55dB以内の聴力損失が軽度のものでは、いづれの周波数においても有意差はみられない。特に7日以内の症例ではOHP、OHP以外の両者とも殆んどものが25dB以内に回復している。しかしながら60dB以上の高度難聴では500Hzで、7日以内の60~85dBの区分、8~14日では60~85dBの区分と90dB以上の区分有意差が(★印)、又15~28日の90dB以上の区分にも、その傾向がえられた(▼印)。

1000Hz、4000Hzでは8~14日の60~85dBの区分にそれぞれ有意差(★印)がみられた。

* 名古屋大学 耳鼻咽喉科

〔総括及び結語〕

OHP 及び OHP 以外の治療成績の比較を要約すると、① 55 dB 以内の軽度難聴症例では、各周波数ともに、発病からの期間に関係なく有意差はみられなかった。② 60 dB 以上の高度難聴症例では、各周波数ともに特に 8～14 日の区分に有意の差をもって OHP に好成績が得られ 500 Hz では更に 7 日以内の区分のものにも有意差がみられた。

以上の成績から、OHP の適応を次の如く施

行している。即ち、発症後極く早期の軽度及至中等度難聴症例に限っては先ず OHP 以外の治療を行い、1 週間位まで聴力回復の状態を観察し、それで回復しそうな症例はそのまま続行する。聴力回復のみられない場合には即刻 OHP に切り替える。しかし聴力損失が scale out もしくはそれに近い高度の難聴に限っては、より早期より即ち第 7 病日以内に OHP を積極的に施行すべきであると考え実行している。

表 1 500 Hz

OHP

病日 聴力損失 症例数	～7日		8～14日		15～28日		29～42日	
	初回	固定	初回	固定	初回	固定	初回	固定
0～25dB	1	1	1	1	3	3	1	1
30 ～ 55	12	10	7	5	5	3	1	0
		2		2		2		1
60 dB ～ 85	★ 41	31	★★ 40	21	11	1	3	0
		9		15		5		1
		1		4		5		2
90 dB ～	29	7	★ 30	4	▼ 14	0	5	0
		6		14		3		0
		11		9		6		0
		5		3		5		5

★★P<0.01 ★P<0.05 ▼P<0.1

OHP 以外

病日 聴力損失 症例数	～7日		8～14日		15～28日		29～42日	
	初回	固定	初回	固定	初回	固定	初回	固定
0～25dB	23	23	9	9	8	8	4	4
30 dB ～ 55	51	45	28	20	9	5	5	1
		6		8		4		4
60 dB ～ 85	102	71	38	10	11	1	13	0
		17		12		5		1
		14		16		5		12
90 dB ～	48	11	19	1	6	0	3	0
		12		7		0		0
		17		4		1		0
		8		7		5		3

表 2 1000 Hz

OHP

病日 聴力損失 症例数	～7日		8～14日		15～28日		29～42日	
	初回	固定	初回	固定	初回	固定	初回	固定
0～25dB	2	2	1	1	2	2	0	0
30 ～ 55	10	9	6	5	4	1	1	0
		1		1		3		1
60 dB ～ 85	40	28	★★★ 41	21	15	0	4	0
		8		14		6		0
		4		6		9		4
90 dB ～	31	2	30	2	12	0	5	0
		11		9		1		0
		12		14		5		0
		6		5		6		5

★★★P<0.0001

OHP 以外

病日 聴力損失 症例数	～7日		8～14日		15～28日		29～42日	
	初回	固定	初回	固定	初回	固定	初回	固定
0～25dB	15	15	8	8	5	5	4	4
30 dB ～ 55	52	47	26	17	8	3	2	1
		5		9		5		1
60 dB ～ 85	109	70	41	9	15	0	15	0
		25		12		6		2
		14		20		9		13
90 dB ～	48	7	19	1	6	0	4	0
		16		4		0		0
		17		7		1		0
		8		7		5		4

表3 4000 Hz

OHP

病日 症例数 听力低下	~7日		8~14日		15~28日		29~42日	
	初回	固定	初回	固定	初回	固定	初回	固定
0~25dB	3	3	1	1	0	0	0	0
30 ~ 55 dB	19	17	10	8	5	2	2	0
		2		2		3		2
60 ~ 85 dB	26	10	** 41	13	15	0	3	0
		12		16		5		0
		4		12		10		3
90 ~ dB	35	1	26	1	13	0	5	0
		5		2		0		0
		17		13		6		0
		12		10		7		5

**P<0.01

OHP 以外

病日 症例数 听力低下	~7日		8~14日		15~28日		29~42日	
	初回	固定	初回	固定	初回	固定	初回	固定
0~25dB	25	25	7	7	1	1	1	1
30 ~ 55 dB	53	42	27	14	9	1	1	0
		11		13		8		1
60 ~ 85 dB	99	45	39	3	14	0	18	0
		34		13		2		2
		20		23		12		16
90 ~ dB	47	3	21	0	10	0	5	0
		6		2		0		0
		24		8		2		0
		14		11		8		5